

名探偵ごっこ

第1話 「キミも名探偵!？」

きゃくほん：立川佳吾（トランク機会シアター）

音) カシャン

スポットライトをあび、とうじょうする明智少五郎（あけち しょうごろう）

コスプレにもみえる、探偵のかっこうをしている。

あけち 「このえいぞうを見ているということは、キミが『探偵虫メガネ』をひろってくれたんだね。どうもありがとう。わたしは名探偵『あけちしょうごろう』。かの名探偵「明智小五郎（あけちごごろう）」のまごのまごだ。

じつは あるきょうあくはんを おって、まちまでやってきたんだが、はんにんのひれつなワナによりわたしは・・・!

たのむ。キミがかわりに、はんにんをつかまえてくれまえてくれ。」

音) もうすぐじかんがくるぞという、あせらせるかんじの音。

だんだんと 照明（しょうめい）が小さくなっていく

あけち 「おっと！じかんだ。でもだいじょうぶ。その『探偵虫メガネ』があればだれでも名探偵になれるぞ。キミだけがたよりだ。たのんだぞー！！」

マヌケなきっかけ音

暗転（あんてん）

じゅんぴがととのったら明転（めいてん）

テーブルとイスがおいてあり、テーブルには「ぬいぐるみ」＝「あけち」

（かべは白で、家具（かぐ）などが えがかれている）

あけち 「・・・たのんだぞ！」

主人公（キミ） 「ぬいぐるみがしゃべったー！」

あけち 「はんにんのワナのせいで、ぬいぐるみにされちゃったんだ！たのむ！たすけておくれ！」

主人公 「ほんとうかなあ？」
あけち 「ほんとうだって。」
主人公 「じゃあ、しょうこは？」
あけち 「しょ、しょうこ？」
主人公 「たんていならしょうこがないと。」
あけち 「ぐぬ、しょうこ・・・。」
主人公 「やっぱりうそなんだー！」
あけち 「うそじゃない！」
主人公 「じゃあしょうこは？」
あけち 「ぐぬぬぬ。」
主人公 「あーあー。こんなへんな虫メガネ ひろわなきゃよかったなあ。」
あけち 「ああ！そうだそうだ虫メガネ！」

ぬいぐるみがスゴイいきおいでちかづいてくる

主人公 「なにになに？」
あけち 「ふっふっふ。これは『探偵虫メガネ』これがあれば、だれでもどんな なんじけんもで
かいけつできるすごいアイテムなのさ。」
主人公 「ふーん。これが、すごいんだね。」
あけち 「じつはそうなんだ。って、ちがーう！！わたしがすごいんだ。」
主人公 「ほんとうかなあ？」
あけち 「ほんとうだって。いや。このやりとりはやめよう。いいかい？その探偵虫メガネはいろいろな
モードがある。ほら、そこにカードがあるだろう？」
主人公 「これかな？」
あけち 「いちばんうえに しんじつモードがあるはずだ。」
主人公 「これだな。」
あけち 「そうだ。それを虫メガネに そうてんして、「チェンジ！名探偵！しんじつモード！」と
おおきなこえで さげぶんだ。」

主人公 「ええええええええええええええええ。」

あけち 「おねがiiiiiiiiiiiiiiiiiiii!わたしが、ぬいぐるみじゃないってことをしょうめいしたいんだ。」

主人公 「わかったよ。」

あけち 「おっきなこえで。おっきなこえでやらないと、ダメだからね。」

主人公 「うーん。でも、はずかしいなあ。」

あけち 「だいじょうぶ。キミならできる。ほら、名探偵になりきって!」

主人公 「わかった。えーと、ここを、ここにさして・・・そして、カードをここに させばいいんだね?

よし!いくよ!チェンジ!名探偵!しんじつモード!」

音)『名探偵 しんじつモード』

なんかカッコいいジングル

あけち 「さあ、虫メガネでわたしをみてごらん。」

主人公 「えい!」

虫メガネでみる

ちょっとせつない おんがく

あけち 「なにがみえる?」

主人公 「たんていのコスプレをしているおじさんがみえる。」

あけち 「それがわたしだ。このように、しんじつモードはすべてのしんじつをうつしだす。」

主人公 「どうしたの?おじさん。ないてるの?」

あけち 「おねがいだよー。いっしょうぬいぐるみでいきるなんてイヤなんだ。たすけてくれよー。

このようにしんじつモードはおもってることもすべて、しゃべってしまうんだ。

おねがいだよ、たすけてくれよー!」

おんがくがおわる

ぬいぐるみだけになる

主人公 「あれ？」

あけち 「しんじつモードのじかんがおわったのさ。」

主人公 「おじさん」

あけち 「なんだい？」

主人公 「ちょっと、かんがえさせてください。」

あけち 「もちろん。」

しゅじんこう めいぐるみからはなれる

あけち 「まあ、むりもない。まだ、こどもだ。だけど、たのむ…！」

主人公、ヒョイト がめんのちかくに あらわれて

主人公 「ちょっとー！これすごくない？これ、すごいよね？だって、これあれば、どんなしんじつだって

わかっちゃうってことでしょ！？しりたーい！でも、しりたくなーい！でもでも、しりたーい！

・・・ん？ちょっとまてよ。いろんなカードがあるっていつたな。てことは、もっといろんな
ことができちゃうんじゃないの？ よし！」

主人公 めいぐるみにちかづく

主人公 「おじさん！」

あけち 「うむ」

主人公 「ぼくがはんにんをみつけだして、めいぐるみから もとにもどしてあげる！」

あけち 「う、う、うわーん！ありがとう。ありがとう——！！」

主人公 「だから、このカードのつかいかた、ぜんぶおしえてよ！」

あけち 「はああ。あんしんしたら、なんだかねむくなってきちゃったな。

それじゃあしたからよろしくたのんだよ」

主人公 「え？ちょっと！！・・・いいもんねー！それじゃあ じぶんでいろいろためしてみちゃう
もんねー！」

あけち 「あ。そうだ、探偵虫メガネはつかいかたをまちがえると、ひどいバツゲームがおきるから、
きをつけるんだぞ。」

主人公 「ちょっと！！それじゃあ ねるまえにおしえてよー！！」

つづく

暗転（あんてん）

エンディングきょくのイントロがながれる

あけち 「ここで第1話はおしまいたが、名探偵になるからには、このうたと かんぺきにしなければいけないぞ。さあ、いっしょにうたっておどろうー！」

《うた》

きょうから、キミは名探偵。どんなナゾも、かかってこい。

まいにちおきる できごとは ぜんぶ ほんとうは たからもの。

あさはねむいよ。ずっとねむっていたい。だけどねてたら、ともだちにはあえない。

あそんで、ねむって、けんかして。べんきょうだってやってるよ。

いっぱいやることあって。へとへとにつかれちゃって。

やりたいこと さいごになって。なんだかいやになっちゃって。

でもね、わたしは、すきなこと さがしてく。

わたしのいちばんの たからもの。どこにあるんだ、みつけるぞ。

まいにち おきる できごとに、ぜんぶ ほんとうは つまってる。

きょうからわたしは名探偵。どんなナゾでもかかってこい。

まいにち おきるできごとは、ぜんぶ ほんとうは たからもの。

みつけるぞ。わたしは名探偵！